

せ。欺しますよつてに欺されにお来なアれと看板を掛けて商賣をして居る所へ、欺されにお来なア  
る貴方が呆阿や。」

「フツ／＼フツ。」

「コラ小照。起請と云ふ物は一枚しか書かんと聞いて居るが。」

「ハア昔は好人一人。しかし近頃のお客さんは仲々普通の手管では承知して呉れはれへんのん。も  
う初會から起請書いて渡してのやし。なか／＼書いて居ては間に合はるので蒟蒻版で刷て貰て  
るのん。」

「蒟蒻版で刷て貰ふ。空に起請を一枚書く時は熊野で烏が三羽死ぬと云ふぞ。おのれの様子に仰山書い  
たら三羽どこやない。熊野中の烏が皆死ぬやないかい。」

「熊野中は愚か。世界中の烏を殺すつもりや。」

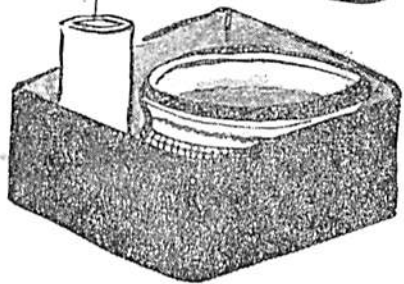
「そんならお前は烏に怨みが有るのか。」

「別に烏に怨みはないけども、あたかも勤めの身。世界中の烏を殺してゆつくり朝寝がして見たい。」

# 談話堂

人魚洞

子野紫緑



## 物には馴れる

人魚洞

物には馴れると云ふことがあつて、他から見えてゐる程苦しう  
ないものである。

床屋が一日中立ちづめで働いてゐるのや、繪師が終日細かい  
仕事をやつてゐるのや、ビール會社の冷蔵庫の中で働いてゐる

人や、汽車、汽船などの火夫、製ビンの職工、煎餅焼き、と云  
つた風に、立ちづめ、ヘタリづめ、寒いところ、暑い仕事と色  
々あるが、其御本人としては其れが職業となつてゐると左程苦  
しうもないものである。